

出前市長室提言記録簿(1月19日開設)

No.	提言者		提言内容	対応(市長等発言内容)
	男・女	年齢		
1	男	52	<p>・移住者を迎える心構えについて 南砺市への移住者が114人、富山県への移住者は462人との報道があった。選ばれる南砺であるために、移住者を迎え入れる上で私たち市民が気を付けたいことや移住者の増加に繋がる行動があれば教えてほしい。</p> <p>・職員の資格取得について 移住者とまず最初に接するのは行政の職員。職員が魅力的で能力が高いことが移住への気持ちを後押しすると考える。このため、資格取得や研修など、職員の能力向上を図ることに対する後押しが大切だと考えるがどうか。</p> <p>・病院の今後について 病院会計は平成27年度に約3億円の赤字となっている。人口減少が進む中、病院会計として収入額も減少すると見込まれるが、経営は持続可能なのか、市長の考えを聞かせてほしい。</p>	<p>・移住者を迎える心構えについて 井波地域では、空き家を活用して移住者を迎え入れる新しい手法が始まっている。雑誌などでは大きなインパクトを持って紹介され、注目度を高めることにつながっている。行政や地域の役割、そして移住者の努力で思いを実現できるまちであることが大切。市民や移住者、観光客も含めて交流する場などを通して、迎え入れる気持ちと語り合える関係を作ることが心構えだと思う。活気につながる成功事例を積み重ねて、人口増に向けての広がりにつなげたい。</p> <p>・職員の資格取得について 資格取得など行政能力向上への取り組みは公務員として年齢や職務に応じて決められているもののほか、職員の自主性を重視する取り組みに力を入れている。中央省庁への職員派遣をはじめ友好都市との職員交流や異業種交流などを通して、まずはネットワークづくりとスキルアップを図ることが大切だと考える。</p> <p>・病院の今後について 現状のまま2つの公立病院と4つの診療所を運営するのは難しいので、将来にわたってどの程度の規模が必要かを試算した計画を策定中である。5年間の計画だが、その先10年、20年後を見据えながら試算し、5年以内にできるだけ早く経営統合を行うことを盛り込んでいる。公立2病院については、将来的に基幹病院とサテライト診療所としての位置付けも必要と考えているが、最終的には砺波医療圏や県の計画などと調整しながら進めていく。</p>
2	男	63	<p>・国民健康保険の運営と国保税の税額について 国民健康保険の税額は自治体単位で決められているが、2、3年後には県単位で運営されると聞く。南砺市の国保税は県内自治体と比較すると高いと言われているが、県単位での運営となれば基準額ができると思う。現状と見通しはどうか。</p>	<p>・国民健康保険の運営と国保税の税額について 南砺市の国保税額は、県内自治体の中では中間より多少高い金額だと認識している。富山県は平成30年から一つの組合として県単位化が図られる予定である。現状、構成市町村で保険税の単価は異なるが、組合がスタートする時点では基準となる金額は決められるが、当面の間、市町村裁量部分もあると聞いている。 あわせて、子ども医療費について、現在中学生までが入院・通院ともに無料化している。来年以降、とやま呉西圏域の6市においては、どの医療機関で受診されても現物給付として、これまでの窓口での償還払い等の手続きが不要になる。</p>
3	男		<p>・子ども医療費助成と病院の経営について 子ども医療費助成は中学生までを対象として無料化しているが、市内または市外の医療機関を受診する受給者数は把握しているか。病院の経営は合併以来かなりの累積赤字ではないか。施設再編等整理が進められる中、公立2病院の整理を進めることが肝要と考えるが、市長の方針を聞かせてほしい。</p>	<p>・子ども医療費助成と病院の経営について 子ども医療費助成の市内市外医療機関別の割合については実績値を後日お知らせしたい。公立2病院の整理については、5年間の計画の中で、まずは経営統合を行う。最終的には、1つを基幹病院に、1つをサテライト診療所として位置付けることを考えている。計画におけるベッド数の今後の推移試算結果からすれば1つにするしかなく、それに向けて進むプロセスをどのような形にするかを先程お話した。施設再編も含めて無駄の大きい部分から整理を進める一環としての今回のプランであることをご理解いただきたい。</p>

出前市長室提言記録簿(1月19日開設)

No.	提言者		提言内容	対応(市長等発言内容)
	男・女	年齢		
4	男	68	<p>・統合庁舎と南砺警察署施設について 既存の建物を活用することがコスト面でメリットがあるがどうか。行政センター機能は、市民や地域に直結した窓口であるから身近に残していただきたい。 また、南砺警察署について、建物の老朽化や駐車場不足が目立つ。市民の安全安心の根幹であることから善処をお願いしたい。</p>	<p>・統合庁舎と南砺警察署施設について 統合庁舎については、昨年から地域での説明会や議会との議論を進めている。既存の建物を活用するか、新規に建設するか2つの大きなパターンがある。考え方を整理して、具体的なシミュレーションに基づき精査をした上で、次の議論につなげていきたい。いずれにしても、まずは初期投資を抑えるべきと考えている。行政センターは市民に直結する窓口なので、現在8地域にある機能は維持したい。 南砺警察署井波幹部交番は古い建物なので、県に要望として伝えているが、南砺以外にも古い建物は多く、順番からすると早期の建て替えは難しいのではないかと考えている。</p>
5	男	68	<p>・旧利賀スキー場災害と統合庁舎、公立病院について 旧利賀スキー場で発生した地滑り災害については、今後人的被害が出ないよう早急に手を打ってほしい。公立病院会計については、年間数億円の補てんが行われている。損失が出ないよう早々に解決を図っていただきたい。また、統合庁舎については、地域にとらわれず、まちづくりの観点から市の中心的な場所を選択し、かつ災害発生時の対応という観点から安全な場所を選んでいただきたい。</p>	<p>・旧利賀スキー場災害と統合庁舎、公立病院について 旧利賀スキー場の災害については、とにかく人的被害が出ないように対応していきたい。病院については方向性を3月議会で説明して問題点や課題を整理していく中で、やるべきことをやっていく。統合庁舎については、選択肢を丁寧に説明すべきだが、世代によっても庁舎そのものの考え方が異なる。いろいろな考え方がある中で、しっかりと意見を伺い、進めていかなければならないと考えている。</p>
6	男		<p>・市民病院の設備投資について 市民病院について設備投資は考えているか。投資によって医療環境などが改善されれば市外流出が減少するのではないかと考えている。</p>	<p>・市民病院の設備投資について 市民病院は3年程前に耐震化と手術室整備を行い、規模の大きな設備投資はほぼ完了している。市民病院は慢性期医療や術後のフォローアップなどのほか、訪問看護と連携した在宅医療を提供する面では日本でも突出しているほか、富山大学とは連携して総合医を養成するプログラムを持っている。地域に根差した医療を提供する意味合いにおいては、国内でも有数の病院だと考えている。</p>
7	男	64	<p>・婚活支援の取り組みについて 市として婚活支援に取り組んでいるが、成果が今一つではないか。今の現状をどのように認識しているか。</p>	<p>・婚活支援の取り組みについて 実績として6年間で108組の成果がある。富山県の取り組みでは、カップル39組で結婚が5組程度と聞いている。出会ってから成婚までは時間がかかるが、成果実績としては誇れる数字だと思う。行政だけで達成できるのではなく、「おせっ会」の皆さんの熱意があるからこそだと思う。取り組みの成果は上がってきているが、市全体とすれば、結婚数や出生数は増加には転じていないので、この数字をプラスにするために、地域も含めて婚活の輪が広がってほしいと考えている。</p>
8	男	69	<p>・自治体境界の歩道整備と道路除雪の問題について 高屋地内から国道156号線に接続する道路で、歩道を整備していただいたが、国道156号線までの延伸をお願いしたい。また、市境では、冬期間に除雪作業が途中で途切れており、車両通行に支障をきたす箇所が見受けられる。改善をお願いしたい。 ・市道の融雪装置について 福野と井波の境など融雪装置が途切れている箇所が見受けられる。旧町村の境を越えて計画を進めていただきたい。</p>	<p>・自治体境界の歩道整備と道路除雪の問題について 自治体境においては、高屋地内も含めて整備や除雪などで問題があることは認識している。また市営バス運行に関しても様々な課題がある。バスや道路の問題解決に向けて、とやま呉西圏域における構成自治体分担金でのルールづくりで取り組んでいけないか可能性を探りたい。 砺波市は住民による除雪エリアも多く、機械除雪の配置が難しいなどの問題もあると聞いている。道路除雪については、自治体境で途切れることがないように自治体間で相談していきたい。 ・市道の融雪装置について 旧町境の融雪装置については、整備された際の計算水量の問題もあり、延伸が途絶えている箇所が見受けられる。市内の融雪に関しては、今後の計画を見直したい。</p>

出前市長室提言記録簿(1月19日開設)

No.	提言者		提言内容	対応(市長等発言内容)
	男・女	年齢		
9	男	68	<p>・自治体境の住民サービスについて</p> <p>井波と庄川の自治振興会長の話し合いの中でも自治体境における前述のような話題があった。自治体間での連携がとれていないとの認識である。井波地域と庄川地域の自治振興会連名で改善を要望したい。</p>	<p>・自治体境の住民サービスについて</p> <p>住民の行き来が必要であるなど、自治体間で相互の状況を理解した上で分担金を決めるという仕組みがないのが現状だが、みなさんの要望を踏まえて、どのような状況か(隣接自治体に)説明する機会を設けたい。</p>
10	男	67	<p>・井波地域への支援やアドバイスについて</p> <p>南砺市全体で地域バランスのよい施策の推進に努めていただきたい。井波には井波彫刻という全国区がある。人を惹きつける要素がすでにあるので、いかにオール井波で取り組んでいくかがポイント。観光面を含めて頑張る人たちに支援やアドバイスをお願いしたい。</p>	<p>・井波地域への支援やアドバイスについて</p> <p>井波の地域バランスを考えると、地域包括ケアセンターや病院、老健施設など地域包括ケアの中心エリアとして位置づけになる。観光面に関して、これからはホンモノを意識して発信する時代になると思う。伝統工芸も含めて、新しいものづくりをどのように広げていくかが大切なテーマになる。近年は、市内において繊維縫製の分野では世界的にもレベルの高い企業がある。ものづくり産業として、まだまだ伸びていく分野であることから今ある技術を生かすことにも力を入れていきたい。これら伝統と歴史、そして新しいものづくりをストーリー性を持たせて情報発信していくとともに、それらに携わる人を応援していきたいと考えている。</p>